平成20年度全国高等学校総合体育大会バスケットボール大会

第61回全国高等学校バスケットボール選手権大会

彩夏到来 08 埼玉総体

平成20年7月31日(木)　　三回戦

Bコート　第4試合　　深谷総合体育館 (深谷ビッグタートル)

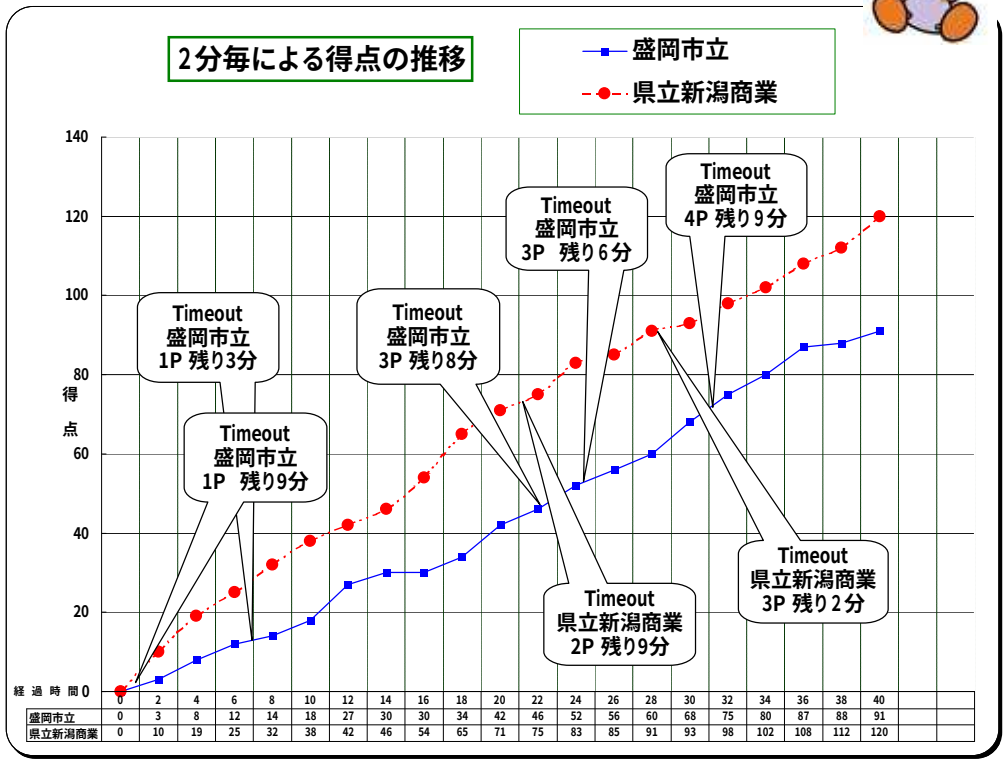
チームA			チームB
盛岡市立 岩 手	91	18 － 38 24 － 33 26 － 22 23 － 27 －	120	県立新潟商業 新 潟

盛岡市立

番号	氏名	出場	得点	3P 成功	3P 試行	2P 成功	2P 試行	FT 成功	FT 試行	反則	リバウンド OF	リバウンド DF	TO	ST	AS	BS	出場時間 単位:分
4	鈴木 優也	X	9	0	3	3	12	3	5	4	0	1	10	4	7	0	34
5	髙橋 且磨	X	29	0	0	11	20	7	12	4	5	5	4	0	2	0	40
6	笹崎 航大	／	0	0	0	0	0	0	0	2	2	0	1	0	0	0	3
7	佐藤 駿		-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	DNP
8	大森 怜	X	5	1	1	1	5	0	0	1	0	0	0	2	0	0	11
9	佐々木 恭	X	10	0	0	5	6	0	0	4	4	5	1	2	2	0	28
10	田中 舘洸	X	28	4	10	8	18	0	1	2	8	3	5	2	1	2	40
11	早川 信太郎	／	5	0	1	2	3	1	2	4	1	2	5	3	2	1	29
12	田上 翔		-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	DNP
13	石井 雄大		-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	DNP
14	晴山 ケビン	／	2	0	0	1	1	0	0	1	1	1	0	2	0	1	7
15	似鳥 晃太	／	3	1	3	0	1	0	0	4	0	0	3	0	1	0	8
コーチ	室岡 茂彰									0	0	4	2				
出場:×は先発、／は出場			91	6	18	31	66	11	20	26	21	21	31	15	15	4	200
			確率	33.3%		47.0%		55.0%			計	42					

県立新潟商業

番号	氏名	出場	得点	3P 成功	3P 試行	2P 成功	2P 試行	FT 成功	FT 試行	反則	リバウンド OF	リバウンド DF	TO	ST	AS	BS	出場時間 単位:分
4	槇坂 健人	X	17	1	4	5	5	4	4	4	2	5	3	1	4	4	25
5	近藤 大	X	21	2	2	4	7	7	8	2	1	4	9	3	8	2	32
6	山崎 将也	X	29	1	4	11	14	4	6	1	5	8	3	4	6	7	33
7	五十嵐 良心	／	10	1	3	3	4	1	1	0	0	3	2	1	0	0	13
8	佐藤 圭汰	／	2	0	0	1	2	0	0	0	0	0	0	1	2	0	3
9	小野寺 弘晃	X	10	2	4	2	6	0	0	2	1	3	7	4	3	2	32
10	田村 亮	／	4	0	0	2	4	0	0	4	0	5	2	2	2	0	15
11	青山 充	／	0	0	2	0	1	0	0	1	0	0	0	2	1	0	8
12	新保 寛人	X	23	5	8	4	7	0	0	4	1	3	3	2	2	4	27
13	佐藤 寛人	／	0	0	1	0	1	0	0	0	0	0	2	1	4	0	9
14	岩淵 俊紀	／	2	0	0	1	1	0	0	1	0	0	1	1	0	0	2
15	村越 俊紀	／	2	0	0	1	1	0	0	0	0	3	2	1	0	0	1
コーチ	中屋 廣昭									0	3	7	1				
出場:×は先発、／は出場			120	12	28	34	53	16	19	19	13	41	35	23	32	19	200
			確率	42.9%		64.2%		84.2%			計	54					



経過時間	0	2	4	6	8	10	12	14	16	18	20	22	24	26	28	30	32	34	36	38	40
盛岡市立	0	3	8	12	14	18	27	30	30	34	42	46	52	56	60	68	75	80	87	88	91
県立新潟商業	0	10	19	25	32	38	42	46	54	65	71	75	83	85	91	93	98	102	108	112	120

戦評

大会3日目3回戦、ベスト8を懸けた得点力のあるチーム同士の一戦。

第1P、最初にペースを掴んだのは新潟商業。＃5近藤のドライブインで始まりオールコートマンツーマンプレスでプレッシャーをかけスティールを連発。盛岡市立はハーフコートマンツーマンで守るが、10対0とされたところでタイムアウト。盛岡市立も＃8大森の3Pシュートや＃9佐々木の1対1で得点するが、新潟商業＃12新保、＃6山崎の3Pシュートが決まり、勢いが止まらない。38対18と新潟商業が大きくリードして第1P終了。

第2P、盛岡市立はディフェンスを2－2－1のゾーンプレスと3－2のゾーンディフェンスに変えた。オフェンスでは＃9佐々木がオフェンスリバウンドからゴール下のシュートを決めるなどリズムが出たきた。しかし、新潟商業もアウトサイドシュートを着実に決め、点差は縮まらない。お互い点を取り合い71対42新潟商業リードで前半終了。

第3P、盛岡市立はディフェンスを1－1－3に変えペースを掴もうとする。しかし、新潟商業のシュートは止まらない。盛岡市立も＃5高橋、＃9佐々木を中心に加点し、追い上げるが93対68新潟商業のリードは変わらない。

第4P、盛岡市立は2－2－1のオールコートゾーンプレスでプレッシャーをかけ最後の追い上げに出る。一方新潟商業は最後まで足が止まらずオールコートマンツーマンでプレッシャーをかけ、ルーズボールにも強い。残り2秒エンドスローインから新潟商業のサインプレイが決まり試合終了。120対91と新潟商業が勝利した。

主審	渡辺 亮	副審	嶋田 博昭	戦評	佐藤 政徳 (埼玉県高体連)

3P：スリーポイントシュート、2P：2ポイントシュート、FT：フリースロー、OF：オフェンス、DF：ディフェンス、TO：ターンオーバー、ST：スティール、AS：アシスト、BS：ブロックショット